

平成23年度第1回定例会

日 時： 平成23年5月12日（木）午後3時～

場 所： 唐木田コミュニティセンター 会議室2

出席者： 会長、副会長、委員4名

図書館長、管理・奉仕担当4名

---

会長： 図書館協議会第1回定例会を開催する。本日は唐木田コミュニティセンターでの会議室を使用しての会議である。

学校教育関係者の委員が交代になった。

(新委員の紹介、各委員挨拶)

(図書館職員の紹介、挨拶)

事務局： 本日は定例会後、唐木田図書館見学を予定している。

(配布資料の説明)

多摩市立図書館の基本方針・運営方針は、1年かけて検討してきた。市民アンケートをとり、1月の図書館協議会で意見をいただき、2月の教育委員会にかけたが継続審議となり、震災の影響で教育委員会が延期となったため、4月の決定となった。1月に配布したものと変わっているが、市民に見やすいレイアウトということで、教育委員会で指示があった。多摩市立図書館の目指すものは市民の「知る」を支援する、ということである。これは、図書館のサービスの向上にとどまらず、広く知るといふ体制でありたいという姿勢が、ここにこめられているものだ。この方針は、使える方針にたく作成した。参考として平成23年度業務分担についての表を配布してあるが、運営方針にそって、何のために業務を行うのか、それぞれ自覚するために、この方針の原点に立ち戻りたいということである。方針は印刷中であるが、出来上がり次第配布ホームページ等に掲載し、自分たちの目指すものをアピールしたいと思っている。図書館協議会でご意見いただいたときに、「持続可能な」という文書に評価をいただいたが、教育委員会でも報告した。また「生きる力を支援する」には、ひとりではないことを入れた方がという意見もいただいたが、ひとりではないことは、そこにすべてが込められており、教育委員会の解釈でこのままにした。

会長： 意見、質問はあるか。

委員： 2ページの「明日を耕す図書館生活」ということばは、イメージがはっきりした。このことばを副題として付けると、市民の「知る」を支援するの中身が想像できる。1ページにないので、2ページにこのことばがあるとわかりやすいと考えていた。

- 事務局： 議論があったところだ。図書館としては入れたかったが、2つあると印象が薄れるということと、「明日を耕す図書館生活」は市民が主語であり、「市民の「知る」を支援する」は図書館が主語である。主語を除いた2つのことばが重なるというのは、いかななものかということで、このようになった。
- 委員： 私は市民が主語ということより、市民を中心に考えると、明日を耕す図書館生活をする市民を図書館が支援する、ということで、そのことばを添えると考えが膨らむと思った。
- 事務局： 今の意見は担当に伝える。この中には入らないが、あらゆるところで使っていきたいと思う。
- 会長： 他に何かあるか。
- 委員： 9ページの(4)の全館で共有していることをメリットとしていて、多摩市立図書館はどこの所属ということなく、一体管理している。しかし、デメリットの面もあるのではないか。先日この図書館にあった本が違う図書館にいつてしまい、また取り寄せるということとか。
- 事務局： メリット、デメリットはある。70万冊の蔵書を他の方法に変えるのは難しいが、メリットをできるだけ活かせるような、運用にしようとしている。システム上の配置はできるようになってきているので、ゆるやかに運用しているということが実情である。
- 委員： 予約した本を別の図書館で返すと、偏りができてしまうことがある。そのあたりはどうしているのか。
- 事務局： ある分野の本がひとつの図書館に集まるということは、その地域の特色でもある。書架整理をする中で、今まであった古い本を他の図書館に送るということはしている。
- 副会長： 多摩市の場合、館籍がないということで独特であり、特徴である。一般的には、各図書館の館籍があり、返却された本はその図書館に戻すが、作業は大変である。町田市の場合は、館籍はあるがそれにこだわらず、他館の本も置くことで、利用が増えることもある。書架が偏る場合もあるので、目配りをしながら柔軟に対応している。多摩市の図書館も特徴を生かし、今後柔軟な対応をしていくとすればよいのではないか。館籍にこだわると逆に労力がかかる。
- 会長： 違う視点で意見はあるか。
- 委員： 3ページの取り組みで、節電対策との兼ね合いが大変だと思うが、将来的にはいかがか。
- 事務局： 震災については本日の配布資料とあわせて、後ほど報告させていただく。
- 次に、第二次多摩市子どもの読書活動推進計画策定委員会設置要綱と

策定のスケジュール案の資料についてである。

事務局： 第一次の計画は平成 18 年度から 5 カ年で策定され、平成 22 年度で終了した。平成 23 年度は 1 年かけて、第二次を策定していく予定である。本日午前、市民連絡会議の第 1 回が開かれた。

(要綱、策定のスケジュール案の説明)

第 7 条により、幹事会のメンバーとして、今回は学校の図書館司書の参加も検討している。

10 月には素案を作成、図書館協議会でも意見を聞き、教育委員会にかけ、パブリックコメントを実施し計画に反映していく。最終的には、3 月の教育委員会で策定していく予定である。

委員： 計画のスケジュール案で、平成 22 年度の「各連絡会議において、できるだけ評価を進めておく」とあるが、何かまとまったものがあるのか。

事務局： 本日の午前の市民連絡会議で出揃った。5 カ年のそれぞれの進行、5 年間通しての総括、それを次の計画に反映すべきかどうかといったことをまとめたものが、図書館、市民、学校、庁内のそれぞれを主体としたものが 4 種類ある。次回の市民連絡会議で二次計画にむけて討議していく。

副会長： 要綱の第 8 条の 3 に、「市民連絡会議は、読書推進団体関係者、図書館団体貸出利用団体関係者その他第二次推進計画に関係し、又は関心のある市民をもって構成する。」とあるが、市民は連絡会議に参加できるようになっていると思うが、どのくらい集まっているのか。

事務局： 本日の参加人数は、声かけは 40 名ほどした中で、18 名である。ホームページでどなたでも参加できると周知している。

副会長： 連絡会開催の都度、声かけをするのか。固定メンバーではないのか。

委員： 固定のメンバーではない。次回の会議予定はホームページでも周知しそれを見て参加した方はいるが、多くはなく、そういう方の継続した参加は、今のところない。関心のある方も数回は参加されているが、地域で活動しているの方が、継続している。

事務局： 1 回でも来られた方には連絡している。図書館協議会の委員も、よろしければ参加いただければと思う。

委員： 評価について、これからやるということだがどれくらいでやるのか。問題点などかなり、やっていっていただきたい。

事務局： 7 月までに要素は出す予定である。今まで反省は毎年やってきているので、そのくらいでできるのではないか。

事務局： 今までは月 1 回開催していたが、2 回程度に増やして対応していく。

委員： 5 年間の見直しは必要だが、既にそれぞれのところがやってきたことの反省と課題はまとめてある。それらの全体については、これからであ

る。

委員： そのようにやっているものを、市民が見れるようにして欲しい。見れるようにしていくことで、また市民が関心を持つ。自分たちが一生懸命やっていることを、市民が知らないことが多いので、それを知ってもらうことも大切である。

委員： 現状を検討の結果、こうなったということは第二次の計画をつくる案としては出せる。討議の経過は難しい。

委員： ある程度、途中が見えるといいと思うが。

会長： 理想的だが、行政がそのような形で発信するのは難しいのではないか。

事務局： 紙ではどなたでも閲覧できるという形にしてあるが、持ち帰って検討させていただきたい。どこまで公開していくかということと、本日の市民連絡会議の資料を委員に配布した方がいいか。

委員： ぜひ、図書館協議会委員に配布願いたい。

副会長： お願いしたい。今後節々で協議する中でも、わかりにくい。議論の経過はわかった方がいい。

事務局： 事務局としては、資料が多いと委員の負担になるのではと思うが、要求のある資料はそろえていく。

会長： 他に本日の配布資料の説明はあるか。

事務局： 利用状況について説明する。

(平成 22 年度利用状況の説明)

予約以外全て減っているが、震災の影響である。自宅からのインターネット予約は年々増加している。七市連携は増えている。

事務局： 唐木田図書館の利用状況について説明する。

登録についてもともと登録率は高い地域であるが、このあと 5 月も登録は続いている。貸出冊数をみると、類似施設の聖ヶ丘図書館と比べて上回り、豊ヶ丘図書館とほぼ同数である。リクエスト数は聖ヶ丘と同数なので、今後周知が必要かと思う。他市は、町田の登録が思ったより少なく、八王子が多い。当面の目標は軌道に乗せる、当たり前のサービスが当たり前にできるということで、特に大きなトラブルもなく、順調である。今後はいろいろな面で、新しい発想をしていきたいと思っている。これからも見守っていただきたい。

副会長： コミュニティセンターとの併設が特徴だが、その中で図書館の活動のアプローチはあるのか。

事務局： まず軌道に乗せることが大事だが、コミュニティセンターに各部会があり、子どもたちへの本の読み聞かせを企画している部会があり、話し合い、資料を提供していきたいと思っている。

- 副会長： 児童館も併設されている。ぜひ積極的にお願いしたい。
- 委員： 環境部会として、本の読み聞かせのポスターが貼ってあった。
- 事務局： 環境部会という名称だが、こだわらずにお手伝いしていきたい。
- 委員： このような複合施設の中に図書館が開館したということは、最初から関戸図書館のような独立した図書館とは違う性質を求めていたということか。
- 事務局： コミュニティセンターと児童館と図書館が入る複合施設ということは、はじめから決まっていた。この施設のテーマが「和」で、建設協議会設立当初から三者の連携は言われていた。基本的な考え方なので、具体的なことはまだこれからである。
- 委員： コミュニティセンターと児童館はもともとあったのか。
- 事務局： この場所は更地であった。
- 委員： 先ほど図書館の場所を尋ねたらわからなく、菖蒲館といたら児童館の建物といていた。
- 委員： コミュニティセンターや児童館の併設なら、聖ヶ丘図書館が先輩施設である。
- 委員： 多摩市の図書館はそれぞれに性格を持っている、という感じか。
- 委員： 唐木田コミュニティセンターの受付で、ブックポストの場所がわからずどこかと聞かれるらしい。建物の後ろなのでぐるっと回り、わかりにくい。どうしても聞いてしまう。この建物の案内がわかりにくく、入口も迷う。そういう意味では、案内表示について、利用してもらうためにも積極的に表示して欲しい。
- 事務局： デザインは素晴らしいが、使い勝手はどうかという声も聞いている。高名な設計事務所の方が設計している。ブックポストの位置はわかりにくいといわれている。掲示を少しづつわかりやすくしていこうと思っている。
- 委員： 1階のトイレも防犯上どうなのかという点も気になった。職員の目が届かない所にあり、いろいろな人が利用するようになると、不安である。ドアがぴたっとしまらなくても、と思う。
- 事務局： 現場では毎月図書館、コミュニティセンター、児童館との話合いの機会があるので、そこでこのような意見があったことは伝える。直せるところは直していくし、難しい部分もある。
- 委員： 経験上トイレの防犯については、問題が起こったことを、聞いたことがある。
- 会長： 次にその他の事項について、事務局からいかがか。
- 事務局： 社会教育委員の会議の答申について、震災の影響で会議が伸び、5月19日の会議で決定するので、そのあとに配布する。また、唐木田図書

館に対する市民アンケートについて、震災の影響を考え、アンケートは6月に実施することになった。次回の定例会で報告していきたい。本日の資料配布で副会長から、資料の配布があった。その説明のあと、多摩市立図書館の震災の影響も説明していく。

副会長： 「多摩デポ通信第18号」という資料を配布している。多摩デポというのは、都立図書館の複本廃棄問題から発足したNPO法人である。(団体、経過の説明)5ページから9ページまでの、町田、調布、多摩市の図書館の震災の影響の状況が載っている。基本的には、非常時であっても開館をして情報発信をすべきと思っているので、多摩市の閉館については、図書館としての機能が果たせなく残念だと思っている。今後の節電対策について、また閉館とならないよう多摩市の図書館として考えがあるのかどうか、そういった意図でこの記事を紹介した。

事務局： 多摩市の図書館は震災後の対応について、3月いっぱい閉館した。多摩市の災害対策本部で決定し、できるかぎりのことはいつてきたが、閉館となった。(経過の説明)大変申し訳なかった。市全体で一斉に閉館したが、4月25日から一斉に時間を戻した。今後その中で、15%の節電を考えていかななくてはならず、輪番休館、時間短縮などの対応もありうるかと思っている。本館は緑のカーテンを実施し、ゴーヤを植える予定である。

委員： 今後地震が起きた場合、職員の避難誘導はどのようになっているのか。

事務局： 年に1回、避難訓練を実施しているが、今回の永山図書館の書架の落下については、職員が離れてくださいと大声で叫んだため、けが人もなく済んだ。今年度は、緊急事態対応検討というチームをつくり、対応していく。

委員： 東海地震はもっと大きなものがくるといわれている。年に数回は避難誘導を実施していくことが、実際に動けるのではないかと思う。

事務局： 各図書館にある緊急避難マニュアルの見直しをしている。

委員： 震災の訓練だが、おはなし会などのボランティアにも声をかけていただき、訓練に参加できたらいいと思う。おはなし会をやっているときに地震があった場合、どのような対応をしたらよいか、話題になったので、ボランティアにも呼びかけて欲しい。

事務局： チームの中で検討していく。

事務局： では、唐木田図書館の見学に入りたい。

会長： これで終了する。